

# 南信濃まちづくり通信

第59号 令和3年1月号 2021年1月1日発行

発行：南信濃まちづくり委員会  
編集：まちづくり委員会総務委員会  
事務局：南信濃自治振興センター  
TEL 34-5111

## 新年を迎えて

## 新しい息吹を感じながら

## 地域が協力してまちづくりを！

南信濃まちづくり委員会

副会長 前澤 憲道

明けましておめでとうございます。

日頃、まちづくり委員会の活動にご協力くださりまして、ありがとうございます。

去年は、新型コロナ禍が収まらない一年でした。

その中で印象に残った出来事は、タイムカプセルの開封と投函されたものの交付作業でした。平成2年に南信濃村発足30周年記念として、当時の村民を挙げて30年後に想いを込めて参加・投函していただき実施した事業でした。

この30年間を振り返ると、タイムカプセル埋設時の人口は、2,822人でした。その後、木沢小学校が和田小学校に統合、特別養護老人ホーム遠山荘の完成、平成6年の矢筈トンネル完成、福祉の里完成、平成12年のかぐらの湯完成など、地域の活性化に寄与する事業が展開されました。それらは地域の財産として誇りでした。あの頃の熱気はすごいものでした。

平成17年、南信濃村は飯田市に合併し閉村しました。かぐらの湯は指定管理制度に移行し、南信濃振興公社が引き続き管理運営を担いました。その時の人口は、2,220人でした。昨年かぐらの湯は、源泉ポンプの事故により温泉供給がストップし、運営は飯田市の直営となりました。

そして昨年11月末日の人口は、1,274人となっています。

近藤和夫元村長の立会いで掘り出したタイムカプセル



30年の時の流れを感じます。過疎高齢化の中、村から市へ移行し、行政と連携しながら地域課題を地域も自らの手で解決する方策を考え活動しようと住民自治組織である、まちづくり委員会が設置され、地域やかぐらの湯の進むべき方向を検討しています。

めまぐるしい動きの中でコロナ禍も重なり、気持ちが落ち着きませんが、こんな時こそ、じっくり自分自身や地域を考えることが必要だと思います。

遠山郷に魅力を感じ、ゲストハウス、シェアハウスの立ち上げ、遠山森林鉄道軌道敷を活用した南アルプスへの登山道建設、かつて開講していた遠山常民大学の復活、和田小学校・遠山中学校・和田保育園の保護者や地域で教育移住を考える活動など新しい動きもあり、今後への期待を感じています。

コロナ禍の中、新しい息吹を感じながら、若い人からお年寄りまで、地域が協力し合ってまちづくりを進めていくことを願っています。

### ◇お知らせ◇

① 次回の自治会文書配布日 1月28日(木)

② 年始最初のリサイクルステーション 1月9日(土)(自治振興センター駐車場)

「かぐらの湯」の再生に向けて、飯田市との協議を始めます

## かぐらの湯検証報告

### 検証結果を市長へ

運営継続ができなかった理由は

利用客数の減少に歯止めがかからず

フグの養殖継続も一因

まちづくり委員会の特別委員会として設置したかぐらの湯検証委員会は、一般財団法人飯田市南信濃振興公社（以下「公社」という。）による運営の状況の分析・検証を終え、その結果を報告書としてまとめ、12月18日の検証委員会で確認しました。

今回の会議は、当地区の重要な観光拠点施設のあり方を広く考えてもらおうと、検証委員全員に加え、まちづくり委員会や観光協会、商工会議所などの関係団体にも出席を呼び掛けた拡大委員会として開いたものです。

この会議での確認を受け、早速12月23日、かぐらの湯の設置者である佐藤健飯田市長と面談しました。

当日は検証委員会を代表して、牧島定好検証委員会会長、検証委員の池端清二さん、玉置洋一さん、近藤力夫さんの4名が出席し、牧島会長から検証・分析結果の報告書を市長へ手渡し、その内容を説明しました。

検証・分析した結果から公社によるかぐらの湯の運営に関する課題も見えてきたので、今後の温泉施設の在り方について市長と意見交換を行い、過去の事は検証委員会の報告書としてまとめたが、今後の温泉施設の在り方については、市と地元と一緒に話し合う場の必要性を強く要望しました。

佐藤市長からは「早く市と地元の協議の場を設置することと、次の温泉施設運営に関しては地元が関わった運営が協議のポイントである」との話があり、「かぐらの湯」の再開に向けて早急に協議する場を設けることを約束していただきました。

～紙面の関係で、報告書全部をここに掲載することはできないので、検証の総括と結びを抜粋します。～



牧島会長から市長に報告書を届け懇談しました

（以下、報告書から抜粋）

#### 6 検証結果まとめ

近い将来、三遠南信自動車道青崩峠トンネル（仮称）の開通によって遠山郷は、東海道ベルト地域から信州への玄関口となることから通行車両が飛躍的に増え、観光や交流人口の拡大が見込まれ、その受け皿となる地域づくりが非常に重要である。その受け皿の1つと期待できる施設がかぐらの湯といえる。

そのためにも、かぐらの湯の運営に関しては、地域住民が強い関心と期待を持つ施設であり、天然温泉による完全な運営再開には、これまでの運営の十分な検証と今後の運営に向けた詳細な検討が必要であり、今回、公社の運営状況について検証した。

かぐらの湯の運営を担ってきた公社が解散となった原因は、右肩下がりの利用客数によって年々収益が減ってきたことが大きな原因であった。しかしながら、明確な運営方法の改善に消極的な姿勢があったのではないかとされる。

その1つが理事会における理事の提案や意見が経営に活かされない組織体質があったのではないかと考えられる。

具体的には、トラフグの試験養殖の継続に関する理事の意見、食堂“味ゆ〜楽”における地元原材料を使ったメニュー改善要望の意見などである。



(2面から続く。)

2つ目としては、施設が大きな規模であり、多額の光熱水費や燃料費などの経常的な固定経費が、利用者数減少に対する収益が見込めない額となっていたことも一因ではないか。改善するとしたら人件費を減額することでしかない状況であったが、低賃金の職員の賃金を減額することは、現実的ではないと思われる。ただ、職員のシフト変更による節減等が可能であったかは、検証できなかった。

3つ目が理事の選定であるが、メンバーは経営の専門家が少なく報酬も非常に少ないこと、さらに、理事会の開催頻度も少なく、公社独特の会計を理解し経営状況を判断することが困難であったと考えられることである。ただ、理事を務めた方々の責任を問うことは無理があるのではないかとと思われる。

そのほか、食堂運営における原価率が非常に高い点、廃棄物処理費が非常に多く、歩留まりの悪い経営であったのではないかと推測され、改善の余地があったのではないかとと思われる。

以上からフグ養殖事業の継続が解散時期を早めたかも知れないが、利用客数の減少に歯止めがかからない中で、公社の経営継続は根本的に難しい状況であったことが伺える。



検証のため確認した公社の資料

## 7 結びに

三遠南信自動車道の全線開通、青崩峠トンネル（仮称）開通を見据え、南信州の新たな玄関口となる遠山郷の地域振興の要である「かぐらの湯」に関する今後の方針については、地元として温泉施設の方向性が見えない中でどうなるのか不安である。

「かぐらの湯」は、地域観光の拠点であるとともに、今後将来にわたって地域振興を図っていくうえでも非常に重要な施設であるため、この検証結果を基にして次の温泉施設の方向について市と地元関係者による話し合いの場が必要である。

～以上です。

## 令和2年を振り返って

### 課題がいっぱい！ うれしい話題も！

年始早々に飛び込んできた驚きのニュースは、かぐらの湯の運営からの公社の撤退が明らかになったことです。また、源泉ポンプ事故も起き、まちづくり委員会では、「今後のかぐらの湯をどうしたらよいのか」を議論するため検証委員会を立ち上げ、また、地域一体となって運営を応援しようと多くの組織が参画して応援団をつくり、施設周辺の環境整備作業やかぐら縁日などの賑わいの場づくりに協力しました。

遠山郷を中心に全編飯田市周辺をロケ地にした映画「いつくしみふかき」が、全国に先駆け飯田市の映画館で2月から上映が始まりました。

4月には、本谷川における水力発電所の建設計画が中部電力から明らかにされ、対策委員会を設置し、詳

細な検討を進めています。

新型コロナウイルスの感染拡大が猛威を振るった年となり、和田小学校では、休校中もオンライン学習の取り組みを進めました。また、色々なイベント・お祭も中止や開催内容の見直しがされました。

豪雨災害は各所に被害があり住民生活に影響を与えています。和田の中橋落橋の早い復旧が待ち望まれます。

住民福祉の面では、中根・須沢方面から木沢地区を対象に乗合タクシー試験運行事業を実施し、高齢者等の足の確保に向けた検討を進めました。また、宅幼老所しろいわの開所はうれしい話題です。

木沢地区では11月に簡易郵便局が復活開局し、地域住民の心の支えになることが期待されます。

そのほか多くの話題のあった一年となりましたが、令和3年が皆様にとっても、当地区にとっても、いい年となりますように。

## 和田 中橋 災害復旧へ 3年後の完成を目指す

昨年7月の梅雨前線豪雨により遠山川が増水し濁流に橋脚が洗われ、和田の中橋が落橋してしまいました。

飯田市では、早急な復旧を目指し地質調査に取りかかり国県等関係機関の支援をいただき、過日、橋梁災害復旧事業として新しい橋梁に架け替えられることが採択され詳細設計等を進めています。今年度は、渇水期から既存橋梁撤去に取り掛かり、3年後の完成を目指していくということです。



現在の中橋は基礎を洗掘され傾いている中央の橋脚と落ちた桁

### ◇新橋の概要(予定)◇

橋長 L=83.5m

下部工(逆T式橋台) N=2基

橋脚工(重力式橋脚) N=1基

## 地区の話題(その20)

### 此田神楽で 新型コロナを追っ払い!

此田神楽保存会員 遠山 政廣

明けましておめでとうございます。

お正月には、和田の家々を訪問する舞の披露が恒例となり親しまれている此田神楽です。

昨年より新型コロナウイルス感染症が流行し、各種行事やイベントが縮小、もしくは中止となっている現状を受け止める中、当保存会としては正月の神楽を実施すべきか、中止するかを会員で検討した結果、このような状況だからこそ獅子舞を行った方が良いとの判断になりました。

神楽の中の「おのさ舞い」という演目には、『皆 三尺のおのさを 持ちては 悪魔を はらせ!! 泰平楽世



と あらたまらせー』という唄いがあり、まさに今新型コロナウイルスという悪魔を追っ払い、1日も早い収束を願い、世の中が平穏に戻ればと祈願して舞わせていただきますので、ご声援の程よろしくお願ひいたし

ます。

今回も小学校の子どもたちにも参加してもらい、家庭を回る予定でしたが、昨年2月頃からのコロナ禍の影響で集まって練習ができなかったため、子どもたちへの指導に行けない状況でした。今回は、子どもたちに参加してもらおう事ができず残念ですが、今年は練習を再開し、一緒に活動できればと願っています。

1月2日の午前9時頃から八重河内八幡神社(尾の島)で舞いを奉納させていただいてから出発し、お伺いした家庭において疫病退散や健康を祈願して舞わせていただきます。

ご協力をお願いいたします。

### ◇お知らせ◇

- ① 学習交流センターの休館 1月3日(日)まで
- ② 図書分館の休館 1月11日(月)まで  
(南信濃公民館から)

- ③ 正月マラソン大会・元旦ウォーキング  
新型コロナウイルスの感染拡大等を踏まえ、中止となりました。  
(和田橋北・和田橋南、八重河内の各分館から)

### ◇自治会長さんへのお願い◇

令和3年度自治会長・地区委員及び自治会役員の報告、文書配布等報告書・文書配布等手数料振込依頼書の提出をお願いします。 \*提出期限1月22日(金)

### 『年末の交通安全運動』シートベルト着用調査結果

- 《12/15 国道152号和田バイパス(夜川瀬地籍)》
- ・運転席 調査数38台 着用者数38人 着用率100%
  - ・助手席 調査数2台 着用者数2人 着用率100%
  - ・後部席 調査数1台 着用者数1人 着用率100%